



## 心のビタミン No.182



### 曖昧から三昧へ

新年おめでとう。正月はいかがでしたか。今年の干支は「未(羊)」。動物12種が使われているが、元々は植物の発達を12段階で表わした。最初は子(種子)、最後は亥(核、結実後の芯)、8番目が未(未熟)だ。未とは木のごずえで未熟な枝を示す象形文字。漢書には曖昧と解釈され、成長途上を意味する。

さて、昨年末に興味深いニュースが。徳島県が「VS東京(ツイエス東京)」を発表した。首都に戦いを挑み、地域の素晴らしさを発信。インターネットで動画をみると、阿波弁が心地良く、秀逸の出来映え。飯泉知事と舛添都知事の会談では、両方が勝つという理想の方向性が示された。また、ノーベル平和賞が先日発表され、受賞者マララ氏のスピーチに感動。なぜこれほど心を揺さぶるのか。原文を熟読

すると「対」の表現が特徴と気付いた。

かつて聖徳太子は日出る処から日没する処へ書簡を送った。太陽が昇る前、ぼんやりした未明を「昧」(日+未)という。「曖」(不安定な心)と合わせ曖昧となる。

これまでは不確定で未解決の事案が数多い。今年には東京オリンピック、ネットでは初音ミク(未来)、TVでは大門未知子、各地域では魅力ある企画など、vsやandの軸で多様な展開を期待したい。

「今日は一日〇〇三昧」を参考に、雑念を払い集中して続けよう。すると、樹木や枝が成長するように、気がつく和前人未踏のレベルまで発展していくかもしれない。

(医師・音楽家 板東浩)

